

# 真誠

学校だより  
No.2

西東京市立  
田無小学校

令和6年  
4月30日

「ちよつと」「ちよつと」

副校長 長谷川 功

令和六年度が始まり、一か月が過ぎようとしています。各書類のご提出や学用品の準備等、新年度をスタートするにあたり、たくさんのご協力をいただきありがとうございます。おかげさまをもちまして、子どもたちは新たなスタートを切ることができ、学校には笑顔と笑い声があふれています。

さて、四月からの一か月、みなさんは「あつという間」に感じたでしょうか。それとも「やつと一か月が終わった」と感じたでしょうか。私は「あつという間」に感じましたが、小学校五年生になる娘は「いろいろやるのがあつて、すごく長く感じた。」と書いています。年齢を重ねるにつれて、一日や一年といった時間感覚が早くなったなと感じたことはありませんか。その理由についての考察の一つに「ジヤナーの法則」というものがあります。

この法則は、人間の体感時間はそれまで生きてきた年齢に反比例するというものです。例えば、五十歳の人間にとって一年の長さは人生の1/50ですが、五歳の人間にとっては1/5に相当します。つまり、五十歳の大人の十日が五歳の子どもの一日に当たり、五歳の子どもは、五十歳の大人より、時間を十倍長く感じるということになります。

これを十歳の小学生を基準に考えると、下の表のようになります。四十歳の大人より十歳の子どもの方が時間を四倍長く感じていることとなります。

日々小学生を見ていて「すごいな！」と思うことに休みの時間の充実した過ごし方がある

年齢	10歳と比較した日数	時間の感じ方の違い
10歳	365日(1年)	1
20歳	183日(6か月)	0.5
30歳	122日(4か月)	0.3
40歳	91日(3か月)	0.25
50歳	73日(2.5か月)	0.2
60歳	61日(2か月)	0.16

ります。十五分間で校庭に出て、遊びの内容を決めて、チームを分けて、元気いっぱい遊び、時にはけんかをしても解決して、汗だくになっている姿を毎日見かけます。大人が十五分でこれだけのことをできるでしょうか。私にはできません。しかし「ジヤナーの法則」に照らし合わせると、大人にとっての十五分は子どもにとって六十分であり、十分な時間なのかもしれません。

また、私が失敗してしまったことに「お留守番」があります。娘が一年生の頃、夢中でテレビを観ていたので「ちよつと面白い物にいつてくるね。」と近くのスーパーに買い物にいき、十五分程度で帰宅すると、号泣する娘が玄関で待っていました。私には「ちよつと」でも娘には途方もなく長い時間を感じていたのでしょうか。

このように考えると小学校で毎日行われている「四十五分間の授業」は、子どもたちにとって、とてつもなく長い時間ということになります。そこで私たち教員は、四十五分間を分けて考えつつ、ひとつながりになるように授業を組み立てていきます。初めの五分間で子どもたちに興味をもたせ、次の十分間では疑問をもたせる。さらに次の十分間では、疑問を解決するためのアイデアを考え、など、授業の進め方を工夫します。低学年の場合、もっと細かく活動を分けていくこともあります。

子どもたちが成長していく過程で、大人と同じことをさせたり、大人の考え方を伝えたりしていくことは必要です。しかし、大人と子どもの違いをしっかりと理解し、発達段階に応じた関わり方をしていくことも、大切だと考えます。これからも、田無小学校では子どもを「ご真ん中」に置き、子どもたちにとってよりよい教育活動を目指し、取り組んでまいります。

## 五月の主な行事予定

31	30	29	28	27	25	24	23	22	21	20	17	16	15	14	13	10	9	8	7	6	3	2	1
金	木	水	火	月	土	金	木	水	火	月	金	木	水	火	月	金	木	水	火	月	金	木	水
体力テスト終			水曜時程・体力テスト始・5時間授業 尿検査二次追加	振替休業日	体育学習公開	水曜時程・5時間授業		尿検査二次		教育実習始		眼科検診(全学年)		耳鼻科検診(全学年)	クラブ活動			水曜時程・避難訓練・委員会		振替休日	憲法記念日	午前授業 個人面談	水曜時程・午前授業・個人面談 消防写真生会(2年わ)・内科検診(146年)

※今月のスクールカウンセラー来校日は10日、17日、24日、31日です。相談のある方は、来校日に直接又は、担任を通して申し込むか、来校日のAM9:00~9:20に463-5902(相談室直通)または学校に連絡してください。